



地区広報

おやまだ

第6号

61. 3. 25



声援を受けて出発する駅伝第一走者(市民センター前で)

「いじめ」問題の うけとめ方

『いじめ』の問題は、日々、深刻さを増しているようである。行きつくところまで行くという、正に、死して(倒れて)後止むというものの凄さである。戦時中の悪夢を連想される年輩の方々も多いことであろう。

『いじめ』問題には、さまざまな要因が複雑にからみ合っており、これも社会の『複合汚染』ともいわれる。それだけに、『いじめ』問題へのかわりとりくみも、決して一様ではない。多様な手当てが望まれよう。

そこで、家庭や学校や社会の中の各組織体、そしてこれらに対して要望したいことは、「力」や「押しつけ」は、『いじめ』の根本的解決には、とうていなりえないということである。人間の偉さに感動し、人間としての「思いやり」や「いたわり」の心を育てることこそが真の解決たりえることを銘記しなくてはならない。

そのために、親や先生や大人たちは範を示すことが切に望まれるのである。

おもな内容

- ② いじめ問題を考える
- ③ ④ ハレー彗星観測会
- ⑤ 300余年伝来の名半鐘

- ⑥ 花と緑を楽しむ会員
- ⑦ 声のひろば
- ⑧ 動物愛護作文
- ⑨ 地区内一周駅伝大会
- ⑩ この人尋ねて

いじめ問題を考える

特集

いま、教育の営みの中で、心の教育が失われていると指摘されています。教育の「育」が「教」に比較して重要視されていないきらいがあります。非行と言うと2・3年前までは、家庭内暴力や暴走族などが世間をさわがせていましたが、それに代って今では「いじめ」が一人の子を自殺に追い込む社会的な問題にまで発展してきています。

3月6日には、鈴鹿市でいじめに耐えかねて中学2年の男子生徒が「さようなら、かわいいことは先生に聞いてほしい」の遺書を残し、尊い命を断つ痛ましいできごとがありました。

今回非行防止、青少年の健全育成を特集しみんなでよく考えてみたいと思います。

大切な思いやりの気持

山田町 長田 一郎

昨年十月、小山田地区青少年健全育成推進協議会の主催により、映画会並びに座談会を地区内各町単位で実施し、地域の皆様と共に、青少年の非行防止について座談会を実施して参りました。

社会を明るくする運動も第三五回を迎え、毎年全国で弁論大会、座談会、研究会などの住民集いが開催され、地区住民を主体とする地道な活動が繰り広げられております。

しかし現状を見ますに、犯罪、特に少年非行の現況はここ数年来数的には横ばいと云われていますが、内容的には凶悪事件の多発、女子少年による性非行の増加、非行の低年齢化とその動向は引続き予断を許さない状況に來ていると言われていると見られます。

わけでも最近の新聞などを見ていますと、「思いやり」のなさが原因していると思われる犯罪が多くなっているように思われます。

たとえば学校などで多くみられる「いじめ」の問題も、もしいじめの側に多少でも思いやりの気持ちがあれば、殺人、自殺に至る凶悪かつ陰惨ないじめは多発しないと思います。

このような状況をみますと青少年対策は、これに携わる関係機関団体のみならず、国民的課題として取組んで行かなければならない問題です。さて昨年十月実施いたしました各町での巡回映画会は、映画「非行への入口」を見て地域のみなさんのご意見をお伺いしました。

先づこの映画を見て「あなたは」「PTAでは」「地域では」今何をしなければならぬのでしょうか。

また「あなたの家庭では、子供のしつけはどのようにしておられるか」。

次に「親と子の対話」「いつ」「どこで」「どのように」しておられますかなどいろいろと問いかけてみました。

活発なご意見も一、二ございましたが、総じて発言が少なくこれで良いのだろうか。まったく問題がないのだろうか心配して帰りました。

非行の芽は早いうちに摘み取らなければなりません。各地域でこのような座談会を時どき持つていただきたいと思っています。

次に参考までに、最近の新聞での関係記事をひろってみます。

▽朝日新聞二月一日 夕刊
「万引きは買うより得」「万引きで店員に見つかつた時」子供たちはどう答えたか

「素直に謝った」が四〇％
「反抗的で、金を払えばいいだろう」が六〇％

▽二月三日 朝刊
「このままじゃ生き地獄」いじめ苦に自殺、遺書で訴え、鹿川裕史君。

▽二月三日 夕刊
「テクノ大将仲間」に信望」「テクノいじめ」

▽二月四日 朝刊
「ぎりぎりまで生に執着」「いじめ対策本離さず」

▽二月五日 夕刊
「部屋で暴行が常習化」顧問教師も放置、香川志度東中

▽二月五日 夕刊
三重県教委初の「いじめシンポ」五〇〇人熱心に討論。

▽二月六日 朝刊
昨秋投身の千春さん遺書でつづる。

▽二月六日 朝刊
「社説、いじめられる君へ」

▽二月六日 夕刊
葬式ごっこされていた。鹿川裕史君の机の上に花、線香、追悼文に先生も署名。

▽二月七日 朝刊
「素直に謝った」が四〇％

「社説、いじめられる君へ」に対する親の反響、共感、心配、冷静な批判。

以上一週間にこれだけのことが掲載されていきました。

このような「いじめ」に対し、学校に対し、先生に対しまた親に対していろいろな意見が出ておりますが、「いじめられる側の親」「いじめめる側の親」は事前に何等か察知出来なかつたのだろうか。親と子の対話が出来ていたのだろうか考えさせられます。

東洋大学中里教授は、社会が必要とする道徳とは「自己抑制力」つまり我慢するということと「愛他心」人思いやるという道徳の二つである。

我慢する心、人を思いやる心は、乳幼児から小学校六年生頃までに形成されます。子供は親の思いやりの気持ちを観察しながら、それを除々に自分のものとしていくものであると云っておられます。もちろん学校での道徳教育も重要なことは言うまでもありません。

親と、先生と、社会全体の大人が一体となって、それぞれの役割を十分果たす必要があると思います。

幼児期は厳格に

私は、戦前、戦中、戦後と長い教育道を歩いて来ましたが、鹿間町 島橋 康男

が、近頃の教育界は嘆かわしく、教育の病状は深刻である。校内暴力、家庭内暴力、登校拒否、体罰、反発行為、器物破壊、自殺、親を殴り殺した子、生徒を殴り殺した教師、等々現代の狂気である。

世間には、この教育の荒廃を学校が悪い、先生の指導が悪いと思っている人がかなり多いらしいが、このような状態になったのは、学校よりむしろ家庭内教育にあると思われるので、特に幼時における「しつけ」方などの問題について、少し述べてみようと思います。

幼児期は厳格に——成長するに従いゆるめていく。

「三つ子の魂百まで」「氏より育ち」これは先祖伝来の名言である。

いま非行に走る青少年も、三才までを正しく育てておけば苦労も軽くすんだものと思われる。子どもは幼児期で性格、人柄がほとんど出来あがってしまうと云われる。

よい習慣をつけるためには、親が甘やかし過ぎて、しつけがおろそかになっていないだろうか。

しつけ（仕付、躰）とは、作りつけること。礼儀作法を身につけさせることである。

しつける方法として、次の行為を考えよう。

叱ると怒る

しかる（叱る）はとがめ戒めること。

いかる。おこる（怒る）は腹を立てて興奮して気が荒くなる。

敲く（叩く）と 殴る

たたく（敲く、叩く）は打ち合せて音を出すこと。

なぐる（殴る）は力をこめて打つ。強く打つこと。

（広辞苑）

幼児はまだ善悪がわからないから、悪いことと思つたらその時、すぐに叱らなければならぬ。——怒つてはいけな——わからすために叱るのである。

感覚でわからすために、時には敲く必要もある。九才頃までは体罰も必要と言われている。殴つてはいけない、敲くのである。一番ききめのあ

るのは手の甲がよいという。軽く敲いてもかなり痛いし、身体的に無害とのことだ。よく言い聞かせて「パチッ」と叩いた後は、母の愛情ある温かい手で撫でてやるとよい。よく言うことを聞いたときは、頭を撫でてうんとほめてやることを忘れないでほしい。こうして善悪の行いを体得させて行くのである。

小学校三年頃までは厳格に習慣づけていき、四年生頃からだんだんゆるめていく。もう体罰はいけな。中学生になると更にゆるめ、十五才頃か

らは全部まかせる。つまり自己責任を持たすのである。そうすると子どもは伸びのびとした気持ちになり、うちの親は理解があると思うようになる。こうなると子育ては成功したのである。

厳格教育の必要な時に甘やかす、中学生の反抗期に厳し

父親の責任と自覚

このほど名古屋の東海テレビ、東海ラジオ本社で、報道局幹部九名と1チャンネル毎日夕方六時からイブニングニュースのキャスター西沢信正氏と親しく話す機会を得た。

話はニュース全般で、中心は「少年の非行問題」でした。

非行のピークは昭和62年頃か？

いま日本全体が少年の非行問題で大きくゆれ動き、その中心が中学生であること。今まで「ものさし」にしていたものが役に立たなくなりつつあるということ。

非行防止は、教育のあり方親のあり方、学校のあり方にかかっており、その特効薬はない。報道内容をより突つこんだものにするため、小さな資料も集め、聴視者に訴え、共に考え、問題解決の糸口にするという。

くすると一層反抗的になる。今度は父親が怒って殴りつける。もう親の手にのらぬ。学校でも不良化していく。

古歌にいわく

かわゆくば五つ教えて三つほめて、

二つ叱って善き人にせん。

鹿間町 萩 伸元

ネライも父親の教育が子供にとつて、いかに大切であるかを知らせるという。テレビ局の予想では、昭和六十二年頃、今よりひどい非行問題が起きるのではないかと、いう。

適中しないではいいが、大変心配なことである。

あたたかい家庭 非行は育たない

「どうして、非行少女になつたのか」のインタビューに「もし、結婚できたら、せめて子供の前だけでも、仲のよい夫婦でありたい」と答えた西沢さんはいふ。

家族と団らんができ、最も心の安らぐ場所、そこが家庭であろう。家庭があたたかければ非行は出ないのである。子供たちも、だんだん変つてゆくように親も変わらなくてはならない。

犬も飼主が弱いと人にかみつくと同じという。

かつて、ラジオの「鐘の鳴る丘」が人気を集め、心おどらせて聞いた私たちの時代、二宮金次郎を手本にした時代は去つたのであろうか。

親がなくては子は育たない

「子供のことは、母親まかせで……」ということが、りっぱな、そして男らしい一つの生き方として、まかり通つて来た。

お母さん方もそう信じて疑わない。この考えに大ナタを振るい断ち切らねばならぬ。父親の役割として、その出番が来たのである。昔のこと

わがに「親がなくては子は育つ」時代から、現代では、「親がなくては、子は育たない」のである。

これからは、「父親の責任と自覚」が問われる時代が来たのである。



明るい笑顔に心が通う

あつ、見えたあれが

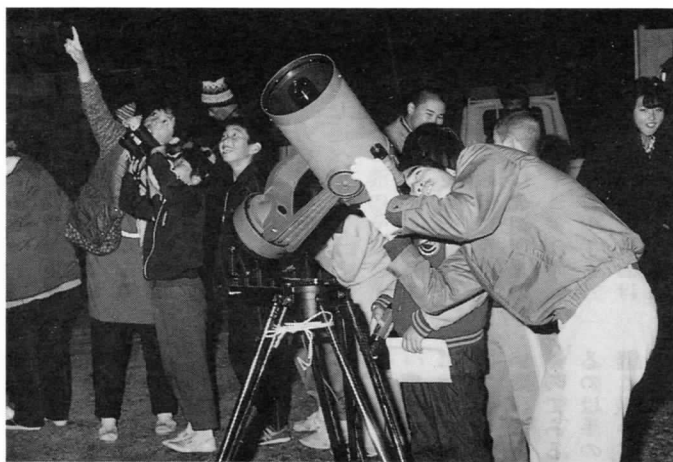
ハレー彗星が！

西山町で観測会を開く

尾は未だ見えず光もかすか。着実に明るさを増してきたハレー彗星。そのハレーをひと目見ようと集まった人たち。初冬の夜空にレンズを通してかすかに映る彗星を、自分の目でとらえることができた。

マスコミが「ハレーづけ」になる直前の去る十一月十五日、西山町集会所でハレー彗星観測会が開かれた。七六年に一度の周期で地球

十一月の日の入りは早く、夕方六時頃には夕空に三ヶ月と木星が姿を見せている。しかしハレーを見るには未だ早い。空高く昇ってくるのをもう少し待たなければならぬ。集まった子供たちには待遠しく感じられる。月や木星を望遠鏡で見たり、屋内で天体写真のスライドを見たりして時を過ごす。時刻は八時。ぼつぼつかなと外へ出る。「あー寒い」風は無いが、さすが十一月の夜は冷える。望遠鏡は途中からの参加を含めて四台がすえつけられている。



ハレー彗星観測会（西山町にて）

に接近するハレー彗星。現代に生きている私たちにとっては一生に一度のチャンスにちがいありません。ここに当日の様子を紙上再録してみました。

「どこからのぞくの?」「ちょっと待って。いまハレーを入れるで!」「ハイ、順番に

並んでな!」「いーち番」「私の方が先やったんやに!」「ワイワイガヤガヤ。」「えー?どこに見えとんの?」「望遠鏡をのぞいて見てもどれがハレー彗星がよく分らない。」「上の方と下の方に星があつて、その間の...」指で「これ」と指し示せないのがつらい。ちょうど道順を電話で教えているようなものだ。

「あーそういうえ何やらボヤーとしたものが見えとるみたいやなあー」(本当に見えとんのかいな) 四台の望遠鏡はフル稼働。「あつ、〇〇君が頭ぶつつけたでいがんでもした」「ハイハイ、今(ハレーを)入れるで待ってな!」と見せる方も結構忙しい。

「あー、これはハッキリ分るわ。向こうの望遠鏡ではあんまり分からんだけど、この望遠鏡ははっきり分かるわ、オイ、お前も見えてみい。『ハレー彗星』って名札がついとんに!」

参加人数は常時三、四〇名、

延では百名にもなる盛況だ。ちょうど小学校でも観測会が開かれ、これと偶然重なってしまったがまずは上出来の集まりだ。そのうち三分の二くらいの人、一生に一度のハレーを楽しんだと思う。

四月には肉眼で見えるかも知れない。それにつけても街灯やネオンの明るいこと、せめて半分でも消せばもっともつと多くの星が眺められ、観測もできるんだかなあーとひとりつぶやく。

なべ坂に排水溝が完成

新入児もこれで安心

鹿間町

鹿間町の小、中学の児童生徒は県道小林・鹿間線を通学しています。このほど鹿間町地内のなべ坂のバス停横に、コンクリートの立派な排水溝が完成しました。

県や市の係のみなさん、ほんとうにありがとうございます。た。

(鹿間町 一父兄)

いままでは夏の大雨の時、ゴミや土砂が大きな排水溝に詰まって水が道路いっぱいにあふれ、足をすべらし、ころんだけがしました。冬は自動車スリッパして何台もの車が止まり、大変あぶなかつたものです。

今回の補修で四月からは、新入児たちも危険がなくなり、これでやっと安心して通学できると父兄は大喜びです。自治会の役員のみなさん、



完成したなべ坂の排水溝

教育委員会のみなさんにはいろいろと協力をいただきましたことを厚くお礼を申し上げます。

(西山町 伊藤敏彦)

ハレー彗星 観測 カレンダー

ハレー彗星 観測 カレンダー		月日	2月9日 (日)	3月10日 (月)	3月15日 (土) 21 (金)	3月26日 (水)	4月1日 (火)	4月11日 (金) 17 (金)	4月24日 (木)	5月下旬	6月下旬	観測チャンスは 次回のハレー彗星	二〇六一年二〇六二年です。							
		太陽に最も近づ く日、昼間太陽 と並んでいるの で見えない	明け方の東南の 空低く現われる	日本全国での観 測チャンス、月 は夜明け前に沈 むので東南の空 にハレーがハッ キリ	満月なので見に くい	この頃、尾が最 も長く見える	2回目の地球接 近(約6300 万km)	皆既日食中に、 ハレーが見える	双眼鏡では見え なくなる	小型望遠鏡では 見えなくなる	10.0 等星	8.0 等星	5.2 等星	4.0 等星	4.1 等星	4.3 等星	4.4-4.5 等星	4.5 等星	3.9 等星	明るさ

次回のハレー彗星観測チャンスは二〇六一〜二〇六二年です。

あの山・この谷もあとわずか 開発に向かう内山周辺

内山町 矢田 哲



騒々しい電話の音で起こされた。きつと間違い電話だろうと受話器を取ると、聞き覚えのある声で「Mさんが危篤です。早くS病院へ行つて下さい」「何んじや」と聞き返す間もなく電話が切れた。

「まさか」若いのに。事故だ。何か事故をやったな」と血まみれの彼を想像しつつ何かの間違いであつてくれる事を祈りながらS病院へと走った。

私の勘はみごとにはずれ、実態は突然の心臓発作との事だった。

ベッドで人工呼吸を受ける彼の姿に、最早や生き返る見込はなかった。

別室で待つ私達に悲しみの泣き声が、彼との永遠の別れを決定づけた。昨日笑つて話していたのに。老少不定とは言うけれども、若い彼があつてなくこの世を去るなんて。同じ年代の若者と同居する私にとって、まさに青天のへきれき、百万ボルトのショックだった。

彼の葬儀に来てくれた人々も、彼の生前の人柄を惜しむと共に、みんな「信じられん

のう」と絶句した。

葬儀のあとの住職のお取り次ぎで「皆さん自分の家でなくて良かったと思つている方々が全部でしょう」の言葉は、本音をついていて会葬者を一層静まらせた。

この世に生を受けた時から



開発に向かう内山町周辺

甲斐と希望を秘めた大波小波が、朝日を受けてきらきらとうねっている。

みなさんのまわりにも同じように、金波銀波が輝いています。今日は明日はどの舟に波しづきが立つことや、波の大きい程舟のうねりも揺れも大きいのに、自分の舟は大丈夫だろうとずっと先のようないふふしています。

「去る者は日々に」と人々の悲しみ、なげきは月日がたつと次第に忘れていく。私にもいつかその時がくる。が舟は揺れるかな？

昨年より内山町にも大きな波が寄せて来ています。山田の出身として二百五十年、約五十戸の血縁につながる人達が農業を営んで来ましたが、信仰厚い人々で、今年も早春の行事としての報恩講が今日もどこかの家で行われています。農業不振の世情のため乳の香りも、お茶の香りも維

持するのには精一杯です。

現在開発の話が進んでいて今年の後半には、慣れ親しんだあの山この谷も大きく変わろうとしています。懐かしい山河や風景との別れが刻々と近づいています。

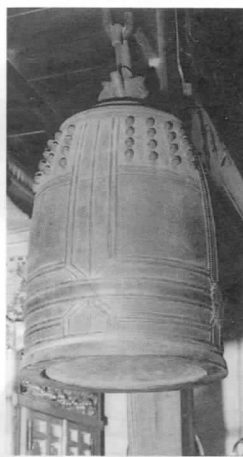
人と人との別れには、どんなに愛があつても元に戻すことは出来ません。歳月がその悲しみを薄めるだけです。

自然の山河とには、何十年たつても別れはありませんが時代の流れかこのそつぽ谷もやがてその景観もずいぶん変わるかも知れない。

どうか新しい出会いには素晴らしい風景の内山村の出現を祈るばかりです。もし変わるのであれば公害都市四日市を吹き飛ばすような内山町の出来るのを祈ります。

300余年今に伝わる 名 半 鐘

六名町 光 輪 寺



光輪寺の半鐘、
「よび鐘用」
は信心深く、
かつ円熟な
人格者でも
あり、農民
からも厚く
信望されて
いました。

時折りのお寺の法要に一層の信仰心を深めるかたわら、住職菩提のために、時の名匠津の住人辻但馬守藤原秀種に、その鐘の鑄造を依頼してこれを寄進いたしました。時に宝永二年十月。約三百年以前元禄時代の事です。

この半鐘は現在、市内の寺院中でも数番目に古いものとたたえられています。

わたくしたち同行一同は、この名鐘を永く寺宝として保存できることを喜び、その鐘の音に合わせて念佛唱和の一層の高まりをこいねがつております。

和顔愛音
(総代 田中弘治郎)

花と緑を育てましょう

—園芸クラブ— 矢田 信夫

わたくしたち人間は、植物のお陰で生きていけると云ってもいい過ぎではないのです。すなわち食糧や衣類や住宅はもちろんのこと、夜間熟睡していても呼吸は続けています。その呼吸に必要な酸素は、植物が生産してくれるからです。そのうえ美しい花が咲きわたるうちに楽しみと、よろこびを与えてくれますのでそのお礼に繁殖の手伝いをするのが園芸です。

一例ですが、今までは改良品種の菊苗を一般に普及するのに約十五年の歳月を要しましたが、バイオテクノロジーが実用化された現在では、親木一本から同時に約二万本の苗を増殖できるようです。

三重県は昔から園芸が盛んで、伊勢菊や伊勢菖蒲、伊勢撫子等を作り出された土地でもあり、最近では菰野菊が牧野博士により発見され、菰野町花に指定されています。

また北牟婁郡では、寒らんにやリュウビンタイ、タニワタ



文化祭に展示されたクラブ会員の作品

り等が自生しています。

尾鷲、熊野地方だけでなく他の地方ではほとんど見られなくなり、漢方薬として珍重されている「天台烏薬」という常緑低木が山間部に自生しています。

この「天台烏薬」にまつわる中国との伝説が古くから伝わり、数年前来日した鄧小平氏や趙紫陽氏に贈った大変よろこばれ、日中友好に役立ったそうです。

しかし近年各地で工場や住宅地の開発と公害のため、緑がだんだん少なくなっているのが淋しく感じられます。

増える会員

花づくりを学ぶ

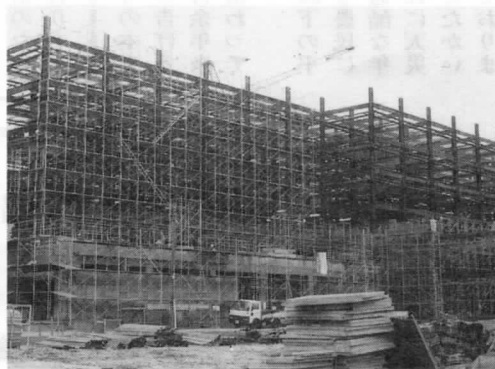
こうした中で小山田地区老人会と市民センターでは、健康と趣味を活かし「花と緑を育てよう」と花づくりに親しむ仲間を求めて、昨年一月より園芸教室を開設しました。

会員は老人会はもとより、一般の方にも呼びかけて毎月定例的に地区市民センターで菊、洋らん、花木、草花などその季節、時期に応じた作り方や栽培方法を学んでいます。

特に昨年の菊づくりについては、五月に菊苗を会員全員に配付し、学んだ技術をもとに各自栽培、開花期にはみことな花が咲きその一部は近鉄四日市駅にも展示されて乗降

11月完成めざし建設中

8階建の小山田記念病院



建設中の小山田記念病院

医療法人小山田病院では、現在山田町のミルク道路沿いに八階建の小山田記念病院を

建設中。

この病院は鉄筋コンクリート造り八階建（延一八六八〇㎡）で、昨年五月着工、この十一月完成の予定で建設が進められています。

完成後は内科、外科をはじめ歯科、眼科など（産科と小児科を除く）各科の総合病院で、一般外来の診療が出来るもの。

また同法人では、同じ敷地内に別棟で地域交流ホームも現在建設が進められ、集會室、和室、図書室、相談室を備え、地域との交流をめざしています。



客の目を楽しませてくれました。また四日市老人福祉センターの菊花展にも多数が入賞他の地区から絶賛を受けました。

さらに地区文化祭には全員が出品しその成果が発表されました。

現在会員は四十数名と次第に増え、毎回楽しくなごやかに研修しています。

またこの会は、いつからでも入会できます。花を愛する方ぜひ入会してください。

れこれ



備えは固し小山田分団
地区防災訓練で（60.9.1）



書道教室（61.2.12）



料理教室（61.2.12）

声のひろば

聞かせていただきました。
いくら世相の移り変わりとはいえ、戦争によってあらゆる物資は日毎に乏しくなっていく。そうした中で子供を育てて行くのは大へんだった。わずかな自分の嫁入り道具を食べ物に替え、大切にしていた着物は子供の服に作り替えるなどして、子供たちを育て家庭を守り抜いた当時の体

戦後生まれの私は、歴史好きな父親の話をよく聞かされながら育ったせいか、嫁いでもからも明治生まれの義父母からよく戦前や戦後の世相、体験談などを聞かせていただく機会があり興味深く感じられます。
先日もある会合で先輩の方から戦時中に自分が体験した苦労談を

ある体験談が心の糧に

堂々山町 打田とめよ

体験談であった。
この話を聞いて私は胸に熱いものを感じました。と同時に今の自分にはとてもかなわぬ、その方たちの力強さに敬服の思いがしました。
当時のつらい苦しい体験のまったくない私でも、やはり「生きとし、生けるもの」に与つての役割や責務は十分であり、それを自身のためと思つて二度とない人生を大切に、暮らしていきたいと思つています。

第二の故郷として転住して何年の歳月が経過したのだろうか。私の先の住所は海の見える海岸沿いでした。
同じ日本に住みながらも山村と海辺の違い、そこには環境が違えば心の持ち方、生活様式に至るまで随分違います。
例えば神佛への祈願も、農村では五穀豊穡を祈れば海辺では大漁祈願。一家の主人が

故郷の小学校が取壊されたと聞き、四十年振りに見に行つた。
昔のままの建物。でも掃除が行き届いているせいか、まだまだ壊されるのは惜しいと思われた。卒業生が毎年植えた記念植樹はみんな大きくなつてゐる。わたくし達が植えた藤の木は、根元のところが割れてくねくね曲がついている。
懐かしさにそつとさわつてみた。朝露に濡れた木は冷たく何も語つてくれない。何だか淋しく胸がじいんとした。

望郷が教えるふる里の味

山田町 矢田春美

これは私の故郷のことを書きましたが、小山田に生れ、小山田に育つて今はこの地を離れて暮しておられる方々も、想いはみんな同じだと思います。
小山田地区の若いみなさん、この地区がぬくもりのある住みよい町になりますよう、力を合せて頑張ってください。
故郷の土の香ふんと宅急便母にだけ打明けたくて墓参り夢で会う友は今でもおさげ髪

海のよさと山村の良さ

堂々山町 奥村

仕事に出れば舟底一枚が地獄との境。山村では静かな夜が来るが海辺では来ない。暗やれぬ気分良さ。
一方農家の人達は、鈴鹿の山に夕日が入るのを背に受けて、一日の疲れを鼻唄で紛らわせて家路に急ぎます。何と言つても山村の良いのは空気の良さと四季の美しさ、四季それぞれ移り変わる自然の景色。こうした中で生れ育ち、現在に至つた自分の人生をふり返ると感慨無量の気持ちで一杯です。



写真でみる行事のあ



地区懇談会 (60.10.21)



救護訓練 地区防災訓練で(60.9.1)



地区文化祭 (60.11.9・10)



好評だった「ちぎり絵」の実演
地区文化祭で (60.11.9・10)



いつでも、どこでもできる健康体操
地区運動会で (60.10.13)

今年も来たつばめ

西陵中一年 矢田 幸江

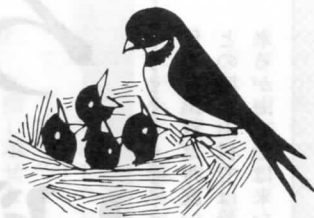
今年も、私の家に、つばめがもどって来ました。玄関の外燈の横に今年になって二回目のつばめが卵をだいてすわっています。だから私の家では、今、外燈はつばめを驚かせてはいけな

60年度第26回全国動物愛護作文コンテスト

◇内閣官房長官賞に輝く◇

は、今、外燈はつばめを驚かせてはいけな

は、今、外燈はつばめを驚かせてはいけな



きくなると、ふんの世話が大変です。巣の中をよごさないように、上手に外へふんを落とすからです。あき箱をうけたり、新聞紙をひいたり、それを毎日取り替えなければなりません。「多少よごされても、つばめのためなら。」というのが家族の一ちした気持ちで子育てを応援しています。

は、今、外燈はつばめを驚かせてはいけな

川柳

山田町 矢田 敦子

山田町 矢田 まさ子

山田町 矢田 まさ子

詩

だんご汁

山田町 矢田 まさ子

子供頃祖母のいる山田へよく遊びに来た祖母はいつも手づくりのだんご汁を作ってくれた

日本一おいしいと思った私は何杯もおかわりをした

おかわりをする時の祖母のうれしそうな顔が目につかぶその頃の山田はこの家から

だんご汁の匂いがしてきたこの頃はだんご汁の姿も匂いどこかへ消えていつてしまった大きなハソリを家族が囲んで

てくれてよかったという様なほっとした気分になります。けれども今年の様に順調な時ばかりではありません。卵をだいているのに巣をすずめに乗っ取られそうになったり、ひなが羽をばたきして落ちたのを巣へ帰してやりたりしたこともありました。

と、私は思います。私の家にくるつばめは、ほとんどが順調なので、半年のうちに二回、卵をうみます。今年も順調で、二回目の巣から何羽育つかわかりません。一回目の時の様にすくすくと育って親つばめと共に元気よく大空を飛び回ってほしいと思っています。体をきたえて秋には南の国へ帰る小さなつばめたちが、来年も忘れず元気での下へ来てくれるように待っていたと思います。

短歌

山田町 矢田 敦子

山田町 矢田 敦子

山田町 矢田 敦子

晴れやかに行進

小山田少年少女消防クラブ

コンビナートを抱え、県下一の規模を誇る四日市市恒例の新春消防出初め式が、今年も去る一月七日市内三滝通りで行われました。

近代消防の威容を誇るはしご車をはじめ各種の車両、それに消防署員や各地区の団員など屈強の大人にまじって、わが小山田少年少女消防クラブも堂々と参加、元氣いっぱい分列行進しました。

会場では、各種の大会が



出初め式に堂々と行進する小山田少年少女消防クラブ

ただいま時計は、午後一時を廻りました。若干遅れておりますが、間もなくスタートと思われまふ。

オヤノ雨が落ちてまいりました。しかし大したことはなさそうです。

第一走者がスタートラインに整列しました。……………これは当日の紙上実況放送の一部です。

小山田地区子供会育成者連絡協議会主催で行われました、第一回地区内一周少年少女駅伝競走大会のスタート前のひとときです。地区内各町の小学校三年生から六年生まで、男女八名を一チームとして十一キロを走ります。

というとカッコイイが、放送車はもちろんビデオカメラも無ければ、テープレコーダーも無く、あの時の感動の記憶をたどりながら、この紙上実況放送をお送りしなければなりません。

地区の子供会活動は、行事中心でハイキング、キャンプ、防火ポスター展、ウォークラリー（オリエンテーリング）など、毎年そのスケジュールに追われ、マンネリ化しつつありました。今年は何か変わった行事をと思いついたのがこの駅伝大会でした。

最初は、小学校の周辺を少

俳句

小山田軽費老人ホーム
俳句同好会

原っぱゆく風を持つ子と持たぬ子と

風花や漂々として掌に承らず

道子

一所の日溜り見つけ日向ぼこ
あき

寒雀梅の蕾を落しけり
志ほ

追ひ越して我を導く枯葉かな
蘆生

落葉の上に一葉々々のいのちかな
ふき

撞球の音のするとき寒き朝
たづ

春筍の先緑して生毛立つ
年雄

新緑を紫に染む桐の花
恵子

大旦孤りの屠蘇は茶碗にて
麦笑

寒鮒や息を潜めて水隠れす
山田町 矢田敦子

川風にゆれるや土手の猫やなぎ

第1回 健脚競った駅伝大会 文化祭協賛に地区内一周 子供育成会

子供育成会

地区市民センターをスタートし、西山、堂ヶ山、和無田、鹿間、六名、山田の各町の中を走って市民センターに戻る十一キロのコースに決まりました。

ど、ある学年には一人も児童がいなかったことがあって、チームの編成に苦労しました。ついに六名町は出場を断念せざるを得ませんでした。逆に小山田町と和無田町は、二チーム編成して出場しました。コースは地区特有の地形から、起伏のはげしい、しかも曲りくねったコースになりました。

は、なるべく交通規制をしなくてもいいように工夫したため、よけいにその度合がひどくなりました。小学生の足では八名がリレーをしても、一時間ばかりかと思われまし

た。さて、午後一時十分にスタートした選手たちは、順調にリレーして各町で地区民の声援を受けてひた走りました。午後一時五十三分、美里チー



スタート前に説明を聞く選手たち

ムのアンカーが早くも市民センターに姿を現わしました。何と四十三分の好記録でした。紙上実況放送のつもりが、ぐちゃぐちゃい苦勞話になりました。今年は第二回目が行われることでしょう。第一回の反省のうえに立って、よりよいすばらしい、より楽しい大会になることを期待します。

ちなみにこの大会を、地区文化祭の日に実施したのは、走ることも文化だと考えたからです。これは後でつけた理屈かも知れませんが……。

ゆだん大敵！

枯れ草火災のシーズンです

南消防署からお願い

春分も過ぎ、寒さからも開放されて屋外での行動が多くなります。これにともない「たき火」「や」「あぜ草焼き」など外での火を使う機会も増えてきます。

この時期は空気が非常に乾燥し、火災の発生し易い日々が続く、毎年多くの火災や枯れ草火災が発生しています。

空き地などの枯れ草はとて

「菊だつて生きものです。わが子と同じように愛情をもつて育てなければ……」と目を細めて語るのは、西山町の



①
良い花は培養土から
果てしない菊づくり

西山町 伊藤三治郎さん

伊藤三治郎さん（七四）。

伊藤さん宅の庭には、現在二〇〇余りの大鉢がところ狭しと並べられている。菊づくりをはじめて十九年。



菊鉢の手入れをする伊藤三治郎さん

現在三滝菊花会の会長を務め、三重県菊花協会、全国菊花連盟にも加盟、いままでは全国の菊花展覧会で三回の入賞をはじめ、各種の展示会で数々の賞を受けている。

良い花を咲かすには、苗の

毎年秋には大輪の厚物、管物菊などがみごとな花を咲かせています。

●風の強い日や、枯れ草の近

●空き地などの枯れ草は除去

しましょう。

●たばこの吸いがらや、マツ

チの投げ捨ては絶対にやめ

ましょう。

●子供の火遊びはさせないよ

う、みんなで注意しましよ

う。

●準備するときは、消火用具を

はらいましょう。

●準備するときは、消火用具を

はらいましょう。

●準備するときは、消火用具を

はらいましょう。

●準備するときは、消火用具を

はらいましょう。

くでは、たき火をしないよ

うにしましょう。

●たき火や、あぜ草焼きなど

をするときは、消火用具を

準備するなど細心の注意を

はらいましょう。

●子供の火遊びはさせないよ

う、みんなで注意しましよ

地区の人口 5,630人

(61年1月現在)

町 別	世 帯 数	人 口		計
		人 男	人 女	
山 田 町	451	793	868	1,661
西 山 町	151	293	317	610
小 山 町	139	289	310	599
内 山 町	53	110	125	235
六 名 町	45	102	107	209
堂ヶ山町	106	244	249	493
美 里 町	38	89	74	163
鹿 間 町	229	458	458	916
和無田町	98	207	216	423
老人ホーム	314	96	225	321
計	1,624	2,681	2,949	5,630



生い茂る道路横の枯れ草

所有者、占有者は、空き地の枯れ草等燃焼危険のある物件を除去しなければならぬことになっております。

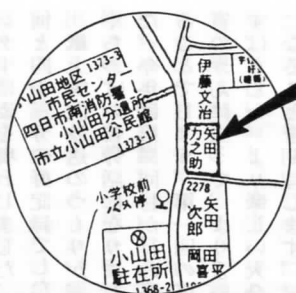
みなさんの所有しておられる空き地をいま一度見直し、雑草が繁っているところは早急に刈り取っていただき、枯れ草による火災の防止にご協力ください。



矢田力之助さん

お知らせ

小山田地区市民センターでは、地区のみなさんが市民センターを利用されるにあたり夜間、休日等いわゆる閉館時に、センターを開閉していただく補助業務（通称「鍵番」）として、山田町の矢田一良氏に変わり、二月



より次の方にお申しましたのでお知らせします。

山田町二三三

矢田力之助

電話二八一八八二

編集後記

◎今世紀最後で、最大の宇宙ページメントとして話題になっている「ハレーすい星」もいよいよクライマックス。

次の機会七六年先には、世の中がどこまで進歩し変わっているだろうか。

◎おりひめが、年一度川（天の川）を渡ってひこぼしに会うといわれる「たなばた伝説」のように、毎年三月末には地区広報紙がみなさんのお手許へ。

◎今年も陽春のきざしを受けて、やっと出来あがった地区広報紙第六号をお届けします。

この地区広報紙が、地区のみなさんの連帯意識を高め、活動を盛りたてる一助になればと思います。